

# Beamer によるプレゼンテーション

応用 数学

岡山理科大学

December 1, 2023

## 先頭行

```
¥documentclass [dvipdfmx, cjk] {beamer}
```

# はじめに

## 先頭行

```
¥documentclass [dvipdfmx, cjk] {beamer}
```

## プリアンプルの部分

```
¥usetheme{Antibes} ←テーマ
```

# はじめに

## 先頭行

```
¥documentclass [dvipdfmx, cjk] {beamer}
```

## プリアンプルの部分

```
¥usetheme{Antibes} ← テーマ
```

```
¥title{大学生活について} ← プレゼンのタイトル
```

# はじめに

## 先頭行

```
¥documentclass [dvipdfmx, cjk] {beamer}
```

## プリアンプルの部分

```
¥usetheme{Antibes} ← テーマ
```

```
¥title{大学生活について} ← プレゼンのタイトル
```

```
¥author{S22M999 応数 学} ← 著者、発表者
```

# はじめに

## 先頭行

```
¥documentclass [dvipdfmx, cjk] {beamer}
```

## プリアンプルの部分

```
¥usetheme{Antibes} ← テーマ
```

```
¥title{大学生活について} ← プレゼンのタイトル
```

```
¥author{S22M999 応数 学} ← 著者、発表者
```

```
¥institute{岡山理科大学 理学部 応用数学科} ← 所属
```

# はじめに

発表内容は、

`\begin{document}` と `\end{document}`

の中に `frame` を作り、(基本的に) その `frame` 内で 1 ページとする。 `frame` 環境の中では、通常の `LATEX` のコマンドを使用する。

この `options` にはさまざまなオプションが用意されているが、良く使うのは `t,c,b` だと思う。これは各フレームで文字を上, 中, 下 のどの位置に表示させるかを指定する。

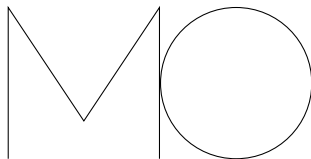
## frame 内の例

```
¥begin{frame}{}  
¥titlepage  
¥end{frame}  
¥begin{frame}[t]{まずは}  
最初のページ。  
¥end{frame}  
.....
```



# オプション [t] の例

オプション [t] は、top に内容がくる。



図ももちろん入れられる。その場合は、TikZ の設定もプリアンブルに入れること。

# オプション [b] の例

オプション [b] は、bottom に内容がくる。

## 基本ブロック

基本的なブロック囲みは

```
¥begin{block}{基本ブロック}
```

基本的なブロックです。

```
¥end{block}
```

としている。

ちなみに、この frame の options に `c` を指定しているので、上下の中央に表示されている。

# ポーズ

1つの画面内のオブジェクトを順番に表示させるときは、`¥pause` を使う。

まず、`¥pause` 次に。

と書くと、

# ポーズ

1つの画面内のオブジェクトを順番に表示させるときは、`¥pause` を使う。

まず、`¥pause` 次に。

と書くと、

まず、

# ポーズ

1つの画面内のオブジェクトを順番に表示させるときは、`¥pause` を使う。

まず、`¥pause` 次に。

と書くと、

まず、次に。

- その1

## 実際のコマンド

```
¥begin{itemize}
  ¥item<1-> その1
  ¥item<2-3> その2
  ¥item<3> その3
  ¥item<4> 2,3を消して、その4
¥end{itemize}
```

- その1
- その2

## 実際のコマンド

```
¥begin{itemize}
  ¥item<1-> その1
  ¥item<2-3> その2
  ¥item<3> その3
  ¥item<4> 2,3を消して、その4
¥end{itemize}
```



- その1
- その2
- その3

## 実際のコマンド

```
¥begin{itemize}
  ¥item<1-> その1
  ¥item<2-3> その2
  ¥item<3> その3
  ¥item<4> 2,3を消して、その4
¥end{itemize}
```

- その1
  
- 2,3を消して、その4

## 実際のコマンド

```
¥begin{itemize}
  ¥item<1-> その1
  ¥item<2-3> その2
  ¥item<3> その3
  ¥item<4> 2,3を消して、その4
¥end{itemize}
```

# 色付けや装飾

文字に色を付けたり、装飾することも出来、途中で変えることも出来る。

$n$  次正方行列  $A$  が正則である。

# 色付けや装飾

文字に色を付けたり、装飾することも出来、途中で変えることも出来る。

$n$  次正方行列  $A$  が正則である。

# 色付けや装飾

文字に色を付けたり、装飾することも出来、途中で変えることも出来る。

$n$  次正方行列  $A$  が正則である。

⇔ 行列  $A$  には逆行列がある。

# 色付けや装飾

文字に色を付けたり、装飾することも出来、途中で変えることも出来る。

$n$  次正方行列  $A$  が正則である。

⇔ 行列  $A$  には逆行列がある。

⇔  $XA = E_n$  かつ  $AX = E_n$  となる行列  $X$  が存在する。

# 色付けや装飾

文字に色を付けたり、装飾することも出来、途中で変えることも出来る。

$n$  次正方行列  $A$  が正則である。

⇔ 行列  $A$  には逆行列がある。

⇔  $XA = E_n$  かつ  $AX = E_n$  となる行列  $X$  が存在する。

⇔ 行列  $A$  の階数 (ランク) は  $n$  である。

# 色付けや装飾

文字に色を付けたり、装飾することも出来、途中で変えることも出来る。

$n$  次正方行列  $A$  が正則である。

⇔ 行列  $A$  には逆行列がある。

⇔  $XA = E_n$  かつ  $AX = E_n$  となる行列  $X$  が存在する。

⇔ 行列  $A$  の階数 (ランク) は  $n$  である。

⇔ 行列  $A$  の  $n$  個の縦 (横) ベクトルは 1 次独立である。



# 最後に二段組

- ・ beamer は MS PowerPoint のようにアニメーションなどは出来ない。
- ・ しかし、論文を  $\text{LATEX}$  で書いた場合、そのソースファイルからプレゼンテーション用の原稿を作ることが容易。
- ・ また、作成したファイルは pdf なので、互換性が高い。
- ・ ちなみに、組み合わせて使えないコマンドが結構多い。

## まとめ

- ・ 想像力と工夫が必要！

## 課題 3.4.4 の 3 ページ目の説明

- 1
- 2
- 3
- 4
- 5
- 6
- 7

に対して、

# 課題 3.4.4 の 3 ページ目の説明

- 1

## 課題 3.4.4 の 3 ページ目の説明

- 2
- 4
- 6

## 課題 3.4.4 の 3 ページ目の説明

- 1
- 3
- 5
- 7

## 課題 3.4.4 の 3 ページ目の説明

- 2
- 3
- 5
- 7

## 課題 3.4.4 の 3 ページ目の説明

- 1
- 2
- 3
- 4
- 5
- 6
- 7